



令和6年度 福島県立須賀川支援学校医大校 学校経営・運営ビジョン中間評価

評価は教員のみ
A: 達成できている
B: ほぼ達成できている
C: あまり達成できていない

校訓
健康・友愛・感謝

児童生徒像
・明るく 強く 生きる人
・自ら学び 考える人
・心豊かで 思いやりのある人

教育目標
○ 生命の大切さを知り、希望をもって、たくましく生きる人を育てる。
○ 自ら課題を見つけ、自ら学び、主体的に判断し、行動できる人を育てる。
○ 感謝の心を育み、信頼と敬愛に満ちた思いやりのある人を育てる。

学校像
・みんなが笑顔で、毎日、安心して登校できる学校
・将来に希望をもち、主体的に学ぶことができる学校
・地域住民や保護者から信頼され、期待される学校

教員像
・子ども一人一人の良さや個性を認め、伸ばす教員
・指導力向上のために、常に自己研鑽に励む教員
・強い使命感と高い倫理観をもって職務に精励する教員

< 今年度の努力目標 >
児童生徒一人一人の状況に応じて、医療との密接な連携のもと、環境を調整し、教育活動を展開することによって、自己に向き合い可能性を伸ばしながら生きていこうとする力の育成に努める。

< 学部目標 >
【小学部】
・医療や家庭との連携のもとに、児童の状況を理解し、個に応じた最適な学びを
実践することで確かな学力を育成する。
・地域の教育資源を活用しながら、友達や教員とのかかわり合いや学び合いを通
して自己と向き合い、自分らしく生きていこうとする力を育成する。

< 学部目標 >
【中学部】
・医療・家庭及び教員間の連携のもとに、生徒の心身の状態や学習状況を把握し、
一人一人に適した学びの保障を行うことで、確かな学力を育成する。
・一人一人の多様な状況に応じて環境を調整し、生徒が心身の状態と向き合うこ
とができるように、病状に応じて自己管理する能力を育成する。

各種計画 目標

健康 体 明るく 強く 生きる人
病気を理解し、健やかな体の育成をめざします
○健康・安全教育の充実 【教員：A】

友愛 知 自ら学び 考える人
教師の専門性を高め、確かな学力の育成をめざします
○学びに向かう力の育成【教員：A】 ○病弱教育の専門性の向上【教員：A】

感謝 徳 心豊かで 思いやりのある人
豊かな心の育成と豊かな生活の実現をめざします
○自己管理能力の育成 【教員：A】

学部目標・学級目標

入学

転入学

転出

卒業

小学部

中学部

【生徒指導・安全教育係】生活調べの結果や担任等の情報提供により、児童生徒の実態把握に努めた。また、退院後の生活も見据えて指導内容を精選し、県立医科大学附属病院や警察署、保健指導係、防災・いじめ防止委員会と連携しながら年齢相応の健康や安全に関する指導を行った。今後も各関係機関と連携しながら、指導内容を精選して実施する。
【保健・食育指導係】学校保健委員会を学校三師の出席のもと、健康教育に関する協議を通して得られた内容を全教員で共有した。健康な生活や食育については、講話や便りで発信できた。今後も継続すると共に、薬物乱用防止教室や食育講話を生かした健康教育の推進と、適切な衛生環境の維持に努める。

【小学部】一人一人の病状等に応じて、どの児童も体験的に学ぶことができるよう、指導方法や教材の工夫、ICT機器の活用にも努めたところ、学習内容の理解や学習意欲の向上につながった。今後も多様な体験の機会を設定し、基礎的・基本的な学習内容の定着や学んだことを活用できる力の育成を目指す。
【中学部】教材やICT機器の活用を含め、一人一人の病状等に応じた学習環境を工夫することで、学びに向かう力の育成に努めることができた。学習量や学習方法についてさらに生徒自身が意識を持つことができるように主体性を育てていく。
【研修部】教員のニーズのもとに講師を選定して基礎研修会・専門研修会を実施し、医療側の取組や連携、児童生徒の現状について理解を深めることができた。今後は校内のグループ研修を通して専門性向上に努める。
【情報部】第1回は情報モラルを含めた研修を行い、第2回は教員向け事前アンケートでニーズのあった機器やアプリ等についての研修を実施して、教員の学びの機会となった。今後は必要に応じて全体に情報提供を行い、各教員が実際に活用する際の悩みや質問等の課題に答えたり一緒に確認したりしていく。

【小学部】ドクターヘリ見学や起き上がり小法師制作等、思いを表現したり友達とかかわったりできる体験的な活動を計画的に実施した。その中で児童同士がかかわりを楽しむ姿や作品の工夫について自分の言葉で発表する姿が見られた。今後も各児童の体調面や心理面を考慮し、タイミングを見極めながら児童同士がつながり合えるよう、教師間で連携して働きかけていく。
【中学部】生徒に関する情報の共有に関して見直しを図り、生徒について学部全体で多角的に把握することができた。その結果、生徒の中心となる指導課題やニーズをふまえ、教科指導や学部合同活動など、教育活動全体で生徒に身に付けさせたい力を意識して支援にあたることができた。内面の表出や行動の調節については、生徒との関係をさらに構築しながら継続して支援に努めていく。

センター的機能の充実 ～ 入院・治療中の児童生徒のニーズに応じた指導の充実をめざします ～ 【教員：A】

医療や原籍校との連携に加え、復学研修会や教育支援委員会による校内での情報共有を行いながら、就学前から高等学校段階の幼児・児童生徒の支援の充実を図った。特に、入院中の児童生徒の学習支援について、在籍校と連携した遠隔授業の支援や病院内の連携の調整など、ニーズに応じて対応に努めた。引き続き、医大校の役割や大切にしたいことを確認したり、幼児・児童生徒や関係者のニーズを反映させた支援の在り方を検討したりしながら、切れ目のない学びと支援の充実に努める。